

# コロナ禍でも工夫しながら

## 新人・2年目研修の報告

9月5日  
新規採用者  
フォローアップ研修

7月4日  
2年目研修

仲間の生活の中で、自分がどの部分を支援しているのか毎日の目先の業務に追われてあまり考えることがなく過ぎてきたと振り返っていました。今回の研修で、改めて障害福祉制度の全体を学び、「生活介護」という部分で仲間とかわっているところについても意識しながら、仲間と何ができるのか考えて過したいと思っています。

個別支援計画についての講義では、「本人と同じ方向で支援していく指針」が個別支援計画であること、そういった指針をつくっていくために本人を理解することが大切だと学びました。職員だけの目線ではなく、仲間やその家族の目線にも立って計画を作成すること、またさうして立てられた計画を意識しながら仲間とかかわっていききたいと思いました。

仲間と一緒に  
左が加藤さん▼



(つむじの家  
加藤ゆい)

今回の研修では、1年目のことを振り返りながら2年目の3か月も含めて考えることができませんでした。福祉制度については、言葉を聞いたことはありましたが、知らなくとも問題はないだろうという気持ちもありました。しかし仲間たちが高齢化に向かう中で、未来のことまで考えようとした時に、その方はどのようなサービスを受けながら生活しているのかも知る必要があると分かりました。これからは、それぞれの生活背景も知っていききたいです。

先輩職員の話を聞いて、私が大切だと思ったことは自分の意見を発信することです。1年目の時は、仕事の流れをつかむことに精一杯で教えてもらったように動くしかできない場面が多々ありました。しかし最近は、「こうやってかわった方がいいのでは」と自分なりに考えることも出てきました。これからは、まわりの職員に発信することを大切にしていきたいと思っています。

(あしたの家  
堀七彩)



### あしたの家へ車両の寄贈



令和2年度、共同募金配分対象事業において、あしたの家に福祉車両を整備することができました。

車両が整備されたことで外出の活動を充実することができるようになりました。

利用者、職員ともども大変嬉しく思っております。寄付者の皆様及び、共同募金会様に御礼申し上げます。

### 編集後記

「初冬号」いかがでしたでしょうか？少しずつ冷たい風が吹いてきて、冬を感じる毎日になってきましたね。

今回の号で強く印象に残るのが「わーくす昭和橋の事業所紹介」だと思います。コロナ禍の中でも仲間・職員一人ひとりが対策を徹底して「肉まん」や「おかず箱」を今まで以上に頑張っている姿や、「平織マット」「下請け仕事」も皆で協力して働いている姿が載っており、こんな状況ではありますが、今できることに全力で取り組み進んでいくことが大切だと感じます。

本格的な冬が近づくにつれて「インフルエンザ」もコロナと同時流行してしまう恐れがあります。今まで以上に作業や食事の面で工夫が必要になり、対策をしなければならない状況になりますが、今頑張っていることを続けていきたいですね。

イルカ作業所とろうじの家では冬期物資を販売中ですので、よろしければチェックしてみてください。  
(大村梨菜)

### イルカ作業所 安藤さん絵画

入選

作業所では、仲間が描いた絵や日頃の写真をコンテストのたびに応募しています。今回、「第37回福祉施設絵画展」で安藤あゆみさんの「大好きな人」という作品が佳作に選ばれました！！仲間の会のみんなで喜びを分かち合いました。本当に嬉しいできごととなりました。





# ともに育つ会ニュース

2020年  
初冬号

港区障害者(児)とともに育つ会 〒455-0803 港区入場1-114-1 TEL(052)355-8000

## 「2020年度要求書」を港区役所に提出

2020年の年明け以降、新型コロナウイルス感染症拡大により、「港区障害者(児)とともに育つ会」の全体会、役員会、そして総会と、大人数が集まる会議については、開催が出来なくなりました。また、ともに育つ会が毎年、参加している「愛知母親大会」、「港区ふれあい広場」、「港生涯学習センター文化祭」などの行事も全て中止となっていました。

毎年4月に開催している総会も5月に延期し開催を試みましたができませんでした。

今、リモートで「ZOOM」を利用しての開催も行われていますが、お母さん方が中心の「ともに育つ会」では、それもままなりません。例年なら4月の総会時に承認する「2020年度要求書」の作成も遅れてしまいましたが、障害当事者、家族、職員からの要求が出そろい、ようやくまとめることが出来ました。

昨年は7月に港区役所地域力推進室に申し入れしましたが、今年度は10月19日に申し入れしました。

例年の規模での懇談会は無理との事と、回答を頂くまで2カ月近くかかるので、年度内に懇談会が開催できればと考えています。

要求項目としては、例年の要求項目とは別に、「新型コロナウイルス感染症関連」を起こし、新型コロナウイルス感染症防止対策として、無償で速やかなPCR検査の実施を求めていきます。また障害当事者が感染した場合、軽症であっても、自宅やグループホームでは更なる感染拡大が懸念されることから、入院を求める事と、入院する場合や指定する宿泊施設においても、障害にに応じた入院環境を整えた治療・療養の場を確保することなどを求めています。

▼昨年の懇談会の様子



## 暮らしの場の確保を

ともに育つ会は「全国障害児者の暮らしの場を考える会」に加盟しています。8月30日にはリモートで全国の代表委員13名での会議が開催されました。

会議では、「家族の暮らしと健康の実態調査」の最終報告がされました。その中では、「医療や教育、働くことが保障されることで命を大きく伸ばしてきている」しかし、「生きる基盤となる暮らしの場の制度が追いついておらず社会からの孤立、親・家族への依存により生活が成り立っている」「家族介護はもう限界と全体の65%が感じている」「将来について暮らしを支える現在の制度では不十分で展望がもてない」など報告され、「制度の抜本的改革のため社会保障削減に歯止めをかけよう」と確認しあいました。

ともに育つ会としても、コロナ禍における重度の障害者の療養の場、生きる基盤としての暮らしの場の確保を重要課題としてとりにていきます。

会長 磯崎明美

## 第43回港区障害者(児)合同クリスマス会中止のお知らせ

毎年、12月に開催してまいりました「合同クリスマス会」ですが、今年も港区役所講堂をお借りして開催する予定にしておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により中止することとなりました。楽しみにしていただいた皆様には、たいへん申し訳ございません。

また例年、ご寄贈いただいている会社・団体様には次年度以降もひきつづきご支援、ご協力をお願いいたします。

